

## 令和2年度第1回紋別市総合教育会議録

- 1 日 時 令和2年4月16日(木) 午後3時00分～3時36分
- 2 場 所 紋別市役所 市長応接室
- 3 出席者
- |                  |      |
|------------------|------|
| 紋別市長             | 宮川良一 |
| 紋別市教育委員会教育長      | 堀籠康行 |
| 紋別市教育委員会教育長職務代理者 | 小林正男 |
| 紋別市教育委員会委員       | 上林善證 |
| 紋別市教育委員会委員       | 木山順子 |
| 紋別市教育委員会委員       | 渡邊孝博 |
- 4 構成員以外の出席者
- |           |      |
|-----------|------|
| 総務部長      | 牧野昌教 |
| 総務部企画調整課長 | 竹本幸孝 |
- 5 事務局関係
- |            |      |
|------------|------|
| 教育部長       | 山崎義一 |
| 学務課長       | 浜屋武志 |
| 学務課参事      | 茂木洋人 |
| 学務課指導主事    | 綾部雅一 |
| 学校給食センター長  | 斉藤剛  |
| 生涯学習課長     | 山本晃男 |
| スポーツ振興課長   | 田島慎二 |
| 図書館長兼学務課参事 | 平野由香 |
| 博物館長       | 大平祐一 |
| 学務課庶務係長    | 米田晃  |
- 6 協議内容 (1)「令和2年度 紋別市児童生徒の体力向上に向けて」について

## 令和2年度 第1回紋別市総合教育会議 午後3時00分開会

### ○宮川市長

定刻になりましたので、令和2年度第1回紋別市総合教育会議を開催いたします。進行につきましては、私が務めさせていただきます。

それでは、次第に基づいて、本日の協議に入らせていただきます。

協議事項(1)「令和2年度 紋別市児童生徒の体力向上に向けて」について、事務局から説明をお願いします。

### ○綾部指導主事

それでは、協議事項(1)について説明させていただきます。表紙の次のページをご覧ください。本調査は全国の小学校5年生、中学校2年生の児童生徒を対象に実施されており、全8種目の実技調査と家庭での生活・運動習慣に関する質問紙調査からなっております。紋別市の調査結果につきましては、ご覧いただいている内容で、広報もんべつ3月号にて地域にお知らせしたところです。まずは「実技調査の結果」をご覧ください。これは、各種目の紋別市と全道・全国の値をレーダーチャートにしたものです。紋別市の結果は、資料では△のポイントの付いた線になります。点線は全道、実線が全国です。ご覧のとおり、小学校、中学校ともに紋別市の児童生徒は全国、全道の体力水準には至っていないという状況です。個別にみていきますと、男子は小中学校ともに握力の数値が比較的高いです。これは筋力が優れているということです。また、中学校は男子の跳躍能力と女子の柔軟性が比較的に優れていることがわかります。一方で、課題となるのは、小中学校ともに全身持久力です。また、小学校女子と中学校男子で、疾走能力が特に低くなっております。続いて、次のページの「生活・運動習慣に関する調査結果」をご覧ください。共通して良かった点としましては、体育授業が改善・充実しているという点です。これは子ども達が評価したものです。学校では体育の授業に前向きに取り組み、運動に対する興味や関心が向上していると解釈できます。一方で、改善が必要な点としましては、生活習慣に関する点です。朝食を毎日食べている子の割合が低いことと、平日に1日3時間以上テレビやゲーム、スマホ等に触れている子の割合が高いことです。続いて、「生活習慣と体力」の欄をご覧ください。ここには、食事や生活リズムといった生活習慣が、体力に影響を及ぼしているのではないかと、ということを表すスポーツ庁のデータが記載されております。グラフは、「朝食を毎日食べる方が、体力点が高い」、「1日の睡眠時間が長すぎず・短すぎず適切であるほど体力点が高い」、「テレビやゲーム機、スマホ等の視聴時間が短いほど体力点が高い」、という傾向を表しています。このことから、「家庭における生活習慣の改善」が、紋別市の子ども達の体力

向上に向けた一つの大きなポイントであると考えられます。生活習慣の課題が及ぼす影響は、子どもの身体の状態にも表れています。別紙資料をご覧ください。こちらは、「健康・医療・教育情報評価推進機構」による「学校健診情報全体レポート」から一部抜粋・加工したものになります。このレポートは、紋別市の子どもの身体の状態について、全国標準との比較や経年の推移がわかるようになっております。3点だけ説明させていただきます。一点目は、「体重」です。2018年と2019年の2年間の「過体重」児童の割合です。黒いところが紋別市です。全学年で肥満の傾向が強いことがわかります。多いところで40%近くの児童が肥満傾向という学年もあります。全国に比べると2倍以上になります。中学校に入学すると、一気に肥満の割合が下がるのは、体の成長や部活動が影響しているものと考えられます。次のページは、低体重の割合です。こちらは学年を追うごとに増える傾向ですが、全国に比べるとややゆるやか、という傾向がみられます。2019年度は、過体重・低体重いずれも前年度に比べて傾向が弱まっています。これは改善の兆しであるとも考えられます。子どもの肥満はその70%が将来成人肥満につながっているというデータがあります。また、生活習慣病の合併にもつながるため、低年齢のうちに解消することが望ましいとされております。肥満の割合が多い原因としましては、コンビニやファストフード等の影響により食習慣が変化していること、また先程の調査結果でもありましたとおり、メディア視聴時間が生活リズムに悪影響を及ぼしていることが考えられます。その他にも、家庭環境や子どもの特性による過食や偏食なども影響していると考えられます。二点目は、「虫歯」です。次のページをご覧ください。2018年度は奇数学年のみ、2019年は全学年のデータとなっております。ご覧のとおり、「虫歯4本以上」ある児童生徒の割合が、全国に比べ非常に高い傾向が見られます。同時に、学年を追うごとに減少傾向も見られます。「虫歯1～3本」の児童生徒は全国に比べて低い傾向がみられます。こちらは小5～6年生頃にピークを迎えています。次のページは女子の割合です。男子よりもさらに顕著な傾向が見られます。このことから、乳幼児期に母子感染し、適切な予防が行われなまま虫歯が多くなってから治療に至るパターン、もう一つは、成長とともに食習慣や生活リズムが乱れ虫歯が増えていくという二つのパターンが考えられると思います。紋別市の場合は、特に前者のパターンが多くみられますので、未就学児の虫歯を減らしていく方策が必要と考えられます。最後、三点目は、「視力」です。次のページをご覧ください。こちらは中学校のみのデータとなります。前年と比べて視力低下傾向の見られる生徒が、20%から40%くらいの割合でいることがわかっております。子どもの視力低下は社会的にも問題視されてきており、ここ30年で視力0.3未満の子どもが3倍以上、3人に一人は1.0以下というデータもあるそうです。子どもの視力低下の原因は、そのほとんどが「見えてい

ない」ということに子ども自身が気づかない、ということだそうです。子どもは目の調整力が高く、視力不良をカバーするためにその調整力を酷使してしまいます。これは目に大きな負担がかかります。もう一つの原因は、生活環境の変化です。インターネットの発達とともにメディア視聴時間も増えていることも大きな原因の一つです。予防についてではありますが、太陽の光が近視化を抑制するのではないかという研究があります。年少期に1日2時間以上日光に触れた人は視力低下しにくい傾向がある、という研究データもあるそうです。また、日ごろから姿勢に気を付けたり、適切に休憩をするなど、目に負担をかけすぎない、休ませるといったことも大切だということです。ここまで、子どもの体力や身体の状態に影響を与えていると思われる「生活習慣」の課題について、データをもとに説明させていただきました。紋別市では、全国から訪れる合宿団体によるスポーツ教室・講演会や、土曜日の市内高校生以下の体育施設使用料の減免、教員を対象とした「体育実技講習会」の実施など、色々なことに取り組んでおりますが、今後さらに紋別市の子ども達が健康な体と心を持ち、未来を生き抜く力を身に付けていけるようにするため、市として取り組むべきことや改善を図るべき内容について、忌憚のないご意見をお伺いできればと考えております。

以上で説明を終わります。

## ○宮川市長

それでは、ただ今事務局から説明がありましたが、ご意見又はご質問をいただければと思います。いかがでしょうか。小林委員。

## ○小林委員

いろいろ考えましたが、いい助言が思いつきません。現場の方々は、今、苦勞されているのではないのでしょうか。新しい段階に入っているといいますか。自分たちの時とは、違いますから。こういったデータを参考にしながら対応する必要があると強く感じました。

## ○宮川市長

他にご意見ありますか。

## ○上林委員

私自身もそうですけど、市内にいと車を運転して、歩かない。仕事で札幌や東京に行ったほうが歩きますよね。子どもたちも同じようなことが顕著に表れているのではないのでしょうか。日頃から子どもたちは運動不足だとしっかり保護者にも納得していただいて、通学はしっかりと歩いて通学する。通学路の整理も協議

会としてやらせていただいておりますが、そういったところも必要になってくるのではと思います。

### ○木山委員

体力的な問題は、やはり、年間をとおしてどうやって体力をつけていくかということが大事かなと思います。北海道ならではの特質もあるので、特に私は、秋から春にかけてどれだけ運動を継続していけるかということの本州に行くと思います。紋別にいると家にこもりっきりになってしまいますが、本州に行くと、これが冬だということで、これなら散歩もできる、やはり、冬をどう克服していくのが課題なのかなと思いつつ、この結果を見させていただきました。

### ○渡邊委員

私が思っているのが、旭川や札幌などのスーパーと比べると、紋別の生鮮コーナーは少ないような気がします。一度、レジ調査と言いますが、品物を開発するとき、レジの前に立って買い物の調査を実施しているのですが、共働きの多いせいか、加工食品を買われる方が多い。おそらく就労のことにも影響していると思います。そういったことが子どもたちの肥満の原因になっていると思います。やはり体力といっても、食育がベースとなっているのですよね。そこに手をかけるのは難しいかもしれませんが、保護者が調理をして子どもに与えるところの比重が、他の市町村と比べて紋別は低いのではと思います。特に、海産物などは、網走市も同じ港町ですけど、私は、紋別とは違うのではと思います。せっかく紋別は港町で、海産物がたくさん獲れるのにもかかわらず、それが市民に行きわたってないような気がします。そういったところの改善が必要だと思いますし、加工食品や弁当がスーパーに売っていますが、見てみると揚げ物中心になっている。茶色ということがあって、そういったことも影響しているのかなと。自分たちもそういった傾向にあるのですが、なるべく野菜を多く摂る、魚を多く摂り、油もの、揚げ物を阻害するのは難しいですけど、そういったところから食育といったところを重視することによって、体力や骨格が備わってくるのかなと思います。各家庭において、少しでも食品を調理したものを食べるのが、根底にあって初めて体づくりになると思いました。

### ○宮川市長

共働きや母子家庭は、既製品を買ってくる人が多いので、どうしても好きなものを中心に食べてしまうということはあると思います。地域の構成にも大きく関わってくると思います。

## ○渡邊委員

もう少し、地場のものが市内に流通できないのかなと思います。

## ○宮川市長

やはり、秋から春にかけて、長い期間なかなか外で遊べる環境でなかったりするので、どうしても家の中で、ゲームで遊ぶことが多くなってしまいます。冬のスポーツにしても、屋内のスポーツも多い中、紋別には屋内のスポーツ施設がないので、従来のスキーかスケートを外でやってもらうことになるので。今度、道都大学の体育館を改修して、現在の施設で足りないところを補えるようにしたいと考えております。どうしても地域性をみると、室内でできるような施設を充実させないと、やはり運動不足になってしまうのかなと思います。

## ○堀籠教育長

今回は、体力をテーマに取り上げさせていただきましたが、体力は学力よりもさらに、家庭の影響が大きいといわれているので、体を動かす習慣があるご家庭、スポーツをやらなくても観る習慣があるご家庭の子どもたちは、体を動かすといわれているので、ぜひこういったことをご家庭の働きかけで、体を動かす習慣づくりをお願いし、特に、食生活などにもそういったことが出てくると思うのですが。そのほか、指導主事から虫歯や視力矯正の話がありましたが、これこそ家庭でお気を付けいただければ、予防、防止といったことができますので、そういったことを家庭に呼び掛けて、虫歯や視力矯正が必要になってしまうと一生そういったことがついてくるので、そういった働きかけについても教育委員会としてやっていきたいと考えております。

## ○宮川市長

歯磨きの意識というのは、かなりできていると思います。今は、結構きちんと歯磨きさせていますので。それでも、やはり、まだまだなのですね。

## ○堀籠教育長

特に最近では、コロナウイルスの感染で、運動会の対応を考えなければなりません。体を動かす機会が少なくなってくると思いますので、散歩やジョギングは奨励されております。そういうところも考えながら、今年は独特の事情も出てきていますので、教育委員会としてしっかりやっていきたいと考えております。

## ○宮川市長

少し暖かくなれば、外で体を動かせるようになるので、少しは良くなるとは思

います。子どもたちもだんだんストレスをためてきておりますので、早く終息してもらいたいと思います。

### ○宮川市長

その他、これに関連したことでもいいですし、何かございますか。

### ○小林委員

先ほど本州の話が出ておりましたが、本州の人にしてみたら、北海道の冬はウインタースポーツが身近にあるので羨ましいと思っています。我々もウインタースポーツを工夫して、興味を持たせて活用するということがいいのではと思っています。

### ○上林委員

あとは、浅沼さんが残していった野球関係を引き続きやっていただきたいと思っています。興味を持っている子どもも多いので。残念ながら中学校が、人数が足りないという状況なので、そういったところも考えていかなければならないと思っています。少年野球は賑やかですよ。中学校になるとちょっと。高校になると浅沼さんのおかげで賑やかになるのですが。

### ○渡邊委員

中学校で野球をやっていないなくても、高校に入ってやりだす子どももおりますし。何か手法がないのかなと思います。

### ○上林委員

いろいろな部活動に対して、市もいろいろ協力していただいているので、これも一緒に協力しながらいい方法が無いか考えていきたいですよ。

### ○渡邊委員

自分たちの子どもの頃よりもかなり整っていますよね。そういう面では、かなり恵まれているのだけど、ハードルが高いといえますか、なかなか近寄りがたいと思うのか。自分たちが小学生のときには野球は当たり前でしたが、子どもたちはボールを投げられない。当たり前ではないので。そういったことも影響しているのかなと思います。昔は、みんな野球をやっていましたよね。

### ○宮川市長

野球しかありませんでしたからね。

## ○渡邊委員

小さい学校だと、人数が少ないのでチーム組めない。また、自分の子どもがボールを投げられないことにびっくりしました。ボールもバットもすべて持っているのですが。そもそもテレビで野球を観ないので。それもあるのかなど。できる環境にはなっているのですが、一步その環境から離れてしまうと、なかなか接点が無い。

## ○上林委員

遠投をやらせたら、かなり距離は短いのでは。

## ○堀籠教育長

浅沼さんがいたときに、子どもたちにボール投げの指導に入っていたのですが、投げ方が格段に違うのですよね。この体力テストというのは、コツがありますので、練習すればするほど伸びるといえるのがあります。今、部活動の問題がありますが、スポーツ系の活動や文科系の活動は、やはり、子どもたちの数が減っているいろいろな課題が出てきていますので、学校教育と生涯学習の両方にまたがる問題ですが、また別の機会に考えたほうがいいのかと思っていますところ。

## ○宮川市長

肥満についても若年糖尿病など、罹患すると怖いので、そういう部分では考えなければなりませんね。

## ○渡邊委員

そう言われてみれば、昔より肥満の子が多い気がします。

## ○小林委員

今、小学校でも親が送り迎えしている方が多いですね。自分が子どもの頃は、ゼロでした。また、歩いていたので、足も速かったですね。

## ○渡邊委員

登下校の時間は、学校の周りは車ですごいですね。

## ○宮川市長

不審者の問題もありますからね。なので、送り迎えについては何にも言えないので。



### ○堀籠教育長

登下校については、そうしたいのですが、保護者の心配に対して、そこまで言えないのが現状です。非常に難しいと思っております。

### ○宮川市長

授業の中で、例えば、食育などは授業の中で行われていますか。

### ○綾部指導主事

行われております。

### ○渡邊委員

結局、積み重ねなので、一時的にやってどうなるものではないので、難しいですね。

### ○堀籠教育長

給食というのは、教育的効果が高いし、給食を通じていろいろ働きかけなどすることによって、そういった効果はあると思います。

### ○渡邊委員

朝ご飯を食べないのを、どうやって食べるようにするかというのが大事だと思います。確かに眠いから、寝てしまうのは理解できないわけではありませんが。食べるということは、学力にも影響すると思います。

### ○小林委員

子どもの頃は、朝ご飯を必ず食べていました。

### ○渡邊委員

朝ご飯を食べても足りないぐらいだったので、お昼までに集中力が切れてしまいました。

### ○堀籠教育長

そういったことに相関関係があることが分かっていて、朝ご飯を食べるのは、学力が高いのですが、もしかしたら、逆の相関があるかもしれません。学力の高い家庭は、朝ご飯を作ることができる家庭ということで、関連はありますが、因果関係が分かっておりません。

### ○上林委員

昔の元紋別小学校は、食育の面では、自分で畑を作って、収穫して、地元の農家も協力して良い体制だった。そういったことを、同じ形とは言いませんが、取り入れてみるのも良いかもしれませんね。

### ○宮川市長

こういったデータを活用して、保護者に働きかけてみるのも良いですね。

### ○堀籠教育長

今後、考えていきたいと思います。

### ○宮川市長

やはり、実態を保護者に見せたりするのも良いですね。

### ○渡邊委員

学力の結果にも、多少なりとも影響はしていますよね。

### ○堀籠教育長

こういったデータを公表することによって、保護者に意識していただけるので、経費がかからない割に効果が高いと思います。ぜひ、そういったこともやっていきたいと考えております。

### ○上林委員

過体重についても、こうしたデータを示し、紋別って高いですね言っても、保護者が自分の子どもを過体重とっていないかもしれませんね。

### ○渡邊委員

コロナウイルスに対する認識も同じで、認識が甘い人もいないですか。それも同じような気がします。ただ、公開することによって、少しでも認識する保護者が増えていけば、違うのかなという気がします。

### ○上林委員

改めて自分の子どもを見て、過体重ではないかと思う保護者も出るかもしれません。

### ○木山委員

以前は、小太りであろうが、太っていようが、結構動ける子どもがたくさんいましたよね。あの子太っているけど、やたらと動けるよねと。そうであれば気になりませんが、太っていて動けない、何に対しても積極的に関わらないという子どもが多くなるということは、やはり困るかなと思います。少々の小太りであれば、そんなに気にする必要はないと思います。

### ○上林委員

あまりにも痩せすぎているよりは、良いですよ。

### ○渡邊委員

子どもたちも、自分が太っているとは思っていませんよ。

### ○堀籠教育長

全体的な傾向ということですので、過体重の子どもが多いという結果となっております。

### ○渡邊委員

この結果を見て、逆にダイエットに走られても困りますね。

### ○堀籠教育長

こういったデータには、少ない体重の統計もありますので。

### ○木山委員

最低でも、朝ご飯は食べることができるようにするのが基本中の基本だと思いますので、そこだけはやってほしいと思います。せめて、何かを食べてこようと。それぐらいの後押しはしたいと思います。

### ○渡邊委員

朝食を食べるだけで、かなり変わってくると思います。手料理を食べることよりも、まず、しっかりと朝食を食べることを徹底できれば、変わってくるような気がします。それは、体力もそうですけど、学力も多分、向上すると思います。

### ○上林委員

毎回、朝ご飯の必要性を訴えているのですが。

**○渡邊委員**

繰り返しやることが大事ですね。

**○上林委員**

そうですね。

**○宮川市長**

はい、わかりました。それでは、よろしいでしょうか。今回は、体力の向上に向けてということで、これから様々な形で働きかけていきたいと思います。

他に事務局から何かございませんか。

**○事務局**

ありません。

**○宮川市長**

無いようですので、それでは、以上をもちまして令和2年度第1回紋別市総合教育会議を終了いたします。お疲れ様でした。

午後3時36分終了